

こんにちは 森林官です!

網走西部森林管理署 白滝森林事務所
首席森林官 中村 幸司



新規採用職員が見つけた
セミの脱皮の様子

【地域の紹介】

私が勤務する白滝森林事務所は、北海道の北東部に位置する旧白滝村(2005年の町村合併により、現在は遠軽町白滝となっています)の国有林を管轄しています。森林事務所は、隣町の遠軽町丸瀬布に所在しています。

地名の由来は、かつて、アイヌ語で大滝を意味する「ホロソウ」と呼ばれ、白い水しぶきを上げる見事な滝があったことから「白滝」と名が付いたそうです。

地域の基幹産業は、主に酪農、畑作です。四方を山々に囲まれ、大雪山系を一望できる「平山」(標高 1,771m)をはじめ、令和5年に日本最古の国宝に指定された「北海道白滝遺跡群出土品」の石器の材料である黒曜石の産地としても有名で、国有林内「赤石山」の露頭周辺に数々の遺跡群が存在します。



6月山開き時の平山山頂

【森林事務所の主な仕事】

現在の森林事務所の体制は筆者以外に、森林をこよなく愛し鋭い観察眼を持つ令和6年度の新規採用職員1名と、白滝生まれで古くから国有林に

従事し卓越した林業技術を擁する非常勤職員2名の計4名により日々の業務を担っています。

冒頭でも記載したとおり、白滝地域には「平山」をはじめとした登山愛好者が訪れる山々があり、国内最大級の黒曜石産地「赤石山」を巡るジオツアーも開催されるなど、レクリエーションの場として活用されています。アクセスには国有林の林道を通行することから、日々の巡視を欠かすことが出来ません。

また、人工林の充実を図り持続可能な森林経営を目指すべく、間伐等の施業実施に向け、年間を通じて森林の現況把握に職員一同で励んでいます。



森林の現況把握に務める白滝森林事務所の職員

【最後に】

この地に勤務して、3年が過ぎようとしていますが、まだ白滝の国有林で足を踏み入れていない場所は多数あります。職員OBには過去の話の聞いたり、新規採用職員からは若手ならではの良い刺激をもらっています。

時代や社会情勢の変化に国有林で働く職員として、国民の期待にどう応えていくのか、日頃からよく森林を観察することが必要だと感じています。